評価規準（第１学年及び第２学年「Gダンス　ア　創作ダンス」）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 観点 | 知識・技能 | | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に  取り組む態度 |
| 単元の評価規準 | ○知識  ・ダンスは，仲間とともに感じを込めて踊ったり，イメージを捉えて自己を表現したりすることに楽しさや喜びを味わうことができることについて，言ったり書き出したりしている。  ・ダンスは， 様々な文化の影響を受け発展してきたことについて，言ったり書き出したりしている。  ・それぞれのダンスには，表現の仕方に違いがあることについて，学習した具体例を挙げている。  ・ダンスはリズミカルな全身の動きに関連した体力が高まることについて，学習した具体例を挙げている。 | ○技能  ・一番表したい場面や動きを，スローモーションの動きで誇張したり，何回も繰り返したりして表現することができる。  ・「走る—跳ぶ—転がる」をひと流れでダイナミックに動いてみてイメージを広げ，変化や連続の動きを組み合わせて表現することができる。  ・「走る—止まる」では，走って止まるまでをひと流れで動いたところからイメージを広げて表現することができる。  ・「伸びる—縮む」では身体を極限・極小まで動かし，イメージを広げて表現することができる。  ・生活や自然現象，人間の感情などの中からイメージを捉え，緩急や強弱，静と動などの動きを組み合わせて変化やメリハリを付けて表現することができる。  ・仲間と関わり合いながら密集や分散を繰り返し， ダイナミックに空間が変化する動きで表現することができる。  ・ものを何かに見立ててイメージをふくらませ，変化のある簡単なひとまとまりの表現にして踊ったり，場面の転換に変化を付けて表現したりすることができる。 | ・提示された事例を参考に，自分の興味や関心に合ったテーマや踊りを設定している。  ・提示された踊りのポイントやつまずきの事例を参考に，仲間やグループの課題や出来映えを伝えている。  ・提供されたテーマや表現の仕方から， 自己やグループの課題に応じた練習方法を選んでいる。  ・学習した安全上の留意点を，他の学習場面に当てはめ，仲間に伝えている。  ・仲間と話し合う場面で，提示された参加の仕方に当てはめ， グループへの関わり方を見付けている。  ・体力の程度や性別等の違いを踏まえて，仲間とともに楽しむための表現や交流を行う方法を見付け，仲間に伝えている。 | ・ダンスの学習に積極的に取り組もうとしている。  ・仲間の手助けをしたり助言したりして，仲間の学習を援助しようとしている。  ・簡単な作品創作などについての話合いに参加しようとしている。  ・一人一人の違いに応じた表現や交流の仕方などを認めようとしている。  ・健康・安全に留意している。 |

評価規準（第３学年「Gダンス　ア　創作ダンス」）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 観点 | 知識・技能 | | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に  取り組む態度 |
| 単元の評価規準 | ○知識  ・ダンスには，身体運動や作品創作に用いられる名称や用語があることについて，学習した具体例を挙げている。  ・それぞれの踊りには，その踊りの特徴と表現の仕方があることについて，学習した具体例を挙げている。  ・それぞれのダンスの交流や発表の仕方には，簡単な作品の見せ合いや発表会などがあること，見る人も拍手をしたりリズムをとるなどしたりして交流し合う方法があることについて，学習した具体例を挙げている。  ・自己の動きや仲間の動き方を分析するには，自己観察や他者観察などの方法があることについて，言ったり書き出したりしている。  ・いろいろな動きと関連させた柔軟運動やリズミカルな全身運動をすることで，結果として体力を高めることができることについて，言ったり書き出したりしている。 | ○技能  ・「出会いと別れ」では，すれ違ったりくっついたり離れたりなどの動きを，緩急強弱を付けて繰り返して表現することができる。  ・「ねじる―回る―見る」では，ゆっくりギリギリまでねじって力をためておき，素早く振りほどくように回って止まり，視線を決めるなどの変化や連続のあるひと流れの動きで表現することができる。  ・「力強い感じ」では，力強く全身で表現するところを盛り上げて，その前後は弱い表現にして対照を明確にするような簡単な構成で表現することができる。  ・「大回り―小回り」では，個や群で大きな円や小さな円を描くなどを通して，ダイナミックに空間が変化するように動くことができる。  ・「椅子」では，椅子にのぼる，座る，隠れる，横たわる，運ぶなどの動きを繰り返して，「もの」との関わり方に着目して表現することができる。  ・気に入ったテーマを選び，ストーリー性のあるはこびで，一番表現したい中心の場面をひと流れの動きで表現して，はじめとおわりを付けて簡単な作品にまとめて踊ることができる。 | ・それぞれのダンスに応じて表したいテーマにふさわしいイメージや，踊りの特徴を捉えた表現の仕方を見付けている。  ・選択した踊りの特徴に合わせて，よい動きや表現と自己や仲間の表現を比較して，成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。  ・健康や安全を確保するために，体調や環境に応じた適切な練習方法等について振り返っている。  ・作品創作や発表会に向けた仲間と話し合う場面で，合意形成するための関わり方を見付け，仲間に伝えている。  ・体力の程度や性別等の違いに配慮して，仲間とともにダンスを楽しむための活動の方法や修正の仕方を見付けている。  ・ダンスの学習成果を踏まえて，自己に適した「する，みる，支える，知る」などの運動を継続して楽しむための関わり方を見付けている。 | ・ダンスの学習に自主的に取り組もうとしている。  ・仲間に課題を伝え合ったり教え合ったりして，互いに助け合い教え合おうとしている。  ・作品創作などについての話合いに貢献しようとしている。  ・一人一人の違いに応じた表現や交流， 発表の仕方などを大切にしようとしている。  ・健康・安全を確保している。 |

評価規準（第１学年及び第２学年「Gダンス　イ　フォークダンス」）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 観点 | 知識・技能 | | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に  取り組む態度 |
| 単元の評価規準 | ○知識  ・ダンスは，仲間とともに感じを込めて踊ったり，イメージを捉えて自己を表現したりすることに楽しさや喜びを味わうことができることについて，言ったり書き出したりしている。  ・ダンスは， 様々な文化の影響を受け発展してきたことについて，言ったり書き出したりしている。  ・それぞれのダンスには，表現の仕方に違いがあることについて，学習した具体例を挙げている。  ・ダンスはリズミカルな全身の動きに関連した体力が高まることについて，学習した具体例を挙げている。 | ○技能  【日本の民踊】  ・花笠音頭やキンニャモニャなどの小道具を操作する踊りでは，曲調と手足の動きを一致させて， にぎやかな掛け声と歯切れのよい動きで踊ることができる。  ・げんげんばらばらなどの童歌の踊りでは，軽快で躍動的な動きで踊ることができる。  ・鹿児島おはら節などの躍動的な動作が多い踊りでは， 勢いのあるけり出し足やパッと開く手の動きで踊ることができる。  【外国のフォークダンス】  ・オクラホマ・ミクサー（アメリカ）などのパートナーチェンジのある踊りでは，滑らかなパートナーチェンジとともに，軽快なステップで相手と合わせて踊ることができる。  ・ドードレブスカ・ポルカ（旧チェコスロバキア）やリトル・マン・イン・ナ・フィックス（デンマーク）などの隊形が変化する踊りでは，新しいカップルを見付けるとともに，滑らかなステップやターンなどを軽快に行い踊ることができる。  ・バージニア・リール（アメリカ）などの隊形を組む踊りでは，列の先頭のカップルに動きを合わせて踊ることができる。 | ・提示された事例を参考に，自分の興味や関心に合ったテーマや踊りを設定している。  ・提示された踊りのポイントやつまずきの事例を参考に，仲間やグループの課題や出来映えを伝えている。  ・提供されたテーマや表現の仕方から， 自己やグループの課題に応じた練習方法を選んでいる。  ・学習した安全上の留意点を，他の学習場面に当てはめ，仲間に伝えている。  ・仲間と話し合う場面で，提示された参加の仕方に当てはめ， グループへの関わり方を見付けている。  ・体力の程度や性別等の違いを踏まえて，仲間とともに楽しむための表現や交流を行う方法を見付け，仲間に伝えている。 | ・ダンスの学習に積極的に取り組もうとしている。  ・仲間の手助けをしたり助言したりして，仲間の学習を援助しようとしている。  ・簡単な作品創作などについての話合いに参加しようとしている。  ・一人一人の違いに応じた表現や交流の仕方などを認めようとしている。  ・健康・安全に留意している。 |

評価規準（第３学年「Gダンス　イ　フォークダンス」）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 観点 | 知識・技能 | | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に  取り組む態度 |
| 単元の評価規準 | ○知識  ・ダンスには，身体運動や作品創作に用いられる名称や用語があることについて，学習した具体例を挙げている。  ・それぞれの踊りには，その踊りの特徴と表現の仕方があることについて，学習した具体例を挙げている。  ・それぞれのダンスの交流や発表の仕方には，簡単な作品の見せ合いや発表会などがあること，見る人も拍手をしたりリズムをとるなどしたりして交流し合う方法があることについて，学習した具体例を挙げている。  ・自己の動きや仲間の動き方を分析するには，自己観察や他者観察などの方法があることについて，言ったり書き出したりしている。  ・いろいろな動きと関連させた柔軟運動やリズミカルな全身運動をすることで，結果として体力を高めることができることについて，言ったり書き出したりしている。 | ○技能  【日本の民踊】  ・よさこい鳴子踊りなどの小道具を操作する踊りでは，手に持つ鳴子のリズムに合わせて，沈み込んだり跳びはねたりする躍動的な動きで踊ることができる。  ・越中おわら節などの労働の作業動作に由来をもつ踊りでは，種まきや稲刈りなどの手振りの動きを強調して踊ることができる。  ・こまづくり唄などの作業動作に由来をもつ踊りでは，踊り手がコマになったり手拭いでコマを回したりする動作を強調して踊ることができる。  ・大漁唄い込みなどの力強い踊りでは，腰を低くして踊ることができる。  【外国のフォークダンス】  ・ヒンキー・ディンキー・パーリ・ブー（アメリカ）などのゲーム的な要素が入った踊りでは，グランド・チェーンの行い方を覚えて次々と替わる相手と合わせて踊ることができる。  ・ハーモニカ（イスラエル）などの軽やかなステップの踊りでは， グレープバインステップやハーモニカステップなどをリズミカルに行って踊ることができる。  ・オスローワルツ（イギリス）などの順次パートナーを替えていく踊りでは，ワルツターンで円周上を進んで踊ることができる。  ・ラ・クカラーチャ（メキシコ）などの独特のリズムの踊りでは，リズムに合わせたスタンプやミクサーして踊ることができる。 | ・それぞれのダンスに応じて表したいテーマにふさわしいイメージや，踊りの特徴を捉えた表現の仕方を見付けている。  ・選択した踊りの特徴に合わせて，よい動きや表現と自己や仲間の表現を比較して，成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。  ・健康や安全を確保するために，体調や環境に応じた適切な練習方法等について振り返っている。  ・作品創作や発表会に向けた仲間と話し合う場面で，合意形成するための関わり方を見付け，仲間に伝えている。  ・体力の程度や性別等の違いに配慮して，仲間とともにダンスを楽しむための活動の方法や修正の仕方を見付けている。  ・ダンスの学習成果を踏まえて，自己に適した「する，みる，支える，知る」などの運動を継続して楽しむための関わり方を見付けている。 | ・ダンスの学習に自主的に取り組もうとしている。  ・仲間に課題を伝え合ったり教え合ったりして，互いに助け合い教え合おうとしている。  ・作品創作などについての話合いに貢献しようとしている。  ・一人一人の違いに応じた表現や交流，発表の仕方などを大切にしようとしている。  ・健康・安全を確保している。 |

評価規準（第１学年及び第２学年「Gダンス　ウ　現代的なリズムのダンス」）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 観点 | 知識・技能 | | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に  取り組む態度 |
| 単元の評価規準 | ○知識  ・ダンスは，仲間とともに感じを込めて踊ったり，イメージを捉えて自己を表現したりすることに楽しさや喜びを味わうことができることについて，言ったり書き出したりしている。  ・ダンスは， 様々な文化の影響を受け発展してきたことについて，言ったり書き出したりしている。  ・それぞれのダンスには，表現の仕方に違いがあることについて，学習した具体例を挙げている。  ・ダンスはリズミカルな全身の動きに関連した体力が高まることについて，学習した具体例を挙げている。 | ○技能  ・自然な弾みやスイングなどの動きで気持ちよく音楽のビートに乗れるように，簡単な繰り返しのリズムで踊ることができる。  ・軽快なリズムに乗って弾みながら，揺れる，回る，ステップを踏んで手をたたく，ストップを入れるなどリズムを捉えて自由に踊ったり，相手の動きに合わせたりずらしたり，手をつなぐなど相手と対応しながら踊ることができる。  ・シンコペーションやアフタービート，休止や倍速など，リズムに変化を付けて踊ることができる。  ・短い動きを繰り返す，対立する動きを組み合わせる， ダイナミックなアクセントを加えるなどして，リズムに乗って続けて踊ることができる。 | ・提示された事例を参考に，自分の興味や関心に合ったテーマや踊りを設定している。  ・提示された踊りのポイントやつまずきの事例を参考に，仲間やグループの課題や出来映えを伝えている。  ・提供されたテーマや表現の仕方から， 自己やグループの課題に応じた練習方法を選んでいる。  ・学習した安全上の留意点を，他の学習場面に当てはめ，仲間に伝えている。  ・仲間と話し合う場面で，提示された参加の仕方に当てはめ， グループへの関わり方を見付けている。  ・体力の程度や性別等の違いを踏まえて，仲間とともに楽しむための表現や交流を行う方法を見付け，仲間に伝えている。 | ・ダンスの学習に積極的に取り組もうとしている。  ・仲間の手助けをしたり助言したりして，仲間の学習を援助しようとしている。  ・簡単な作品創作などについての話合いに参加しようとしている。  ・一人一人の違いに応じた表現や交流の仕方などを認めようとしている。  ・健康・安全に留意している。 |

評価規準（第３学年「Gダンス　ウ　現代的なリズムのダンス」）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 観点 | 知識・技能 | | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に  取り組む態度 |
| 単元の評価規準 | ○知識  ・ダンスには，身体運動や作品創作に用いられる名称や用語があることについて，学習した具体例を挙げている。  ・それぞれの踊りには，その踊りの特徴と表現の仕方があることについて，学習した具体例を挙げている。  ・それぞれのダンスの交流や発表の仕方には，簡単な作品の見せ合いや発表会などがあること，見る人も拍手をしたりリズムをとるなどしたりして交流し合う方法があることについて，学習した具体例を挙げている。  ・自己の動きや仲間の動き方を分析するには，自己観察や他者観察などの方法があることについて，言ったり書き出したりしている。  ・いろいろな動きと関連させた柔軟運動やリズミカルな全身運動をすることで，結果として体力を高めることができることについて，言ったり書き出したりしている。 | ○技能  ・簡単なリズムの取り方や動きで，音楽のリズムに同調したり，体幹部を中心としたシンプルに弾む動きをしたりして自由に踊ることができる。  ・軽快なロックでは，全身でビートに合わせて弾んだり，ビートのきいたヒップホップでは膝の上下に合わせて腕を動かしたりストップするようにしたりして踊ることができる。  ・リズムの取り方や動きの連続のさせ方を組み合わせて， 動きに変化を付けて踊ることができる。  ・リズムや音楽に合わせて，独自のリズムパターンや動きの連続や群の構成でまとまりを付けて踊ることができる。 | ・それぞれのダンスに応じて表したいテーマにふさわしいイメージや，踊りの特徴を捉えた表現の仕方を見付けている。  ・選択した踊りの特徴に合わせて，よい動きや表現と自己や仲間の表現を比較して，成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。  ・健康や安全を確保するために，体調や環境に応じた適切な練習方法等について振り返っている。  ・作品創作や発表会に向けた仲間と話し合う場面で，合意形成するための関わり方を見付け，仲間に伝えている。  ・体力の程度や性別等の違いに配慮して，仲間とともにダンスを楽しむための活動の方法や修正の仕方を見付けている。  ・ダンスの学習成果を踏まえて，自己に適した「する，みる，支える，知る」などの運動を継続して楽しむための関わり方を見付けている。 | ・ダンスの学習に自主的に取り組もうとしている。  ・仲間に課題を伝え合ったり教え合ったりして，互いに助け合い教え合おうとしている。  ・作品創作などについての話合いに貢献しようとしている。  ・一人一人の違いに応じた表現や交流，発表の仕方などを大切にしようとしている。  ・健康・安全を確保している。 |